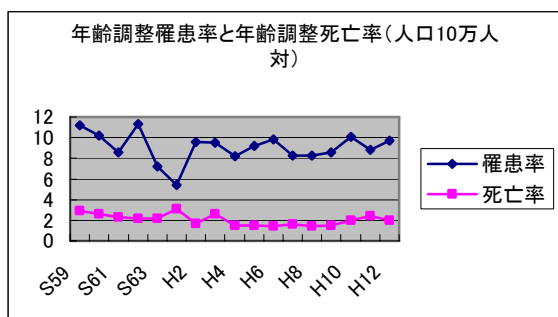


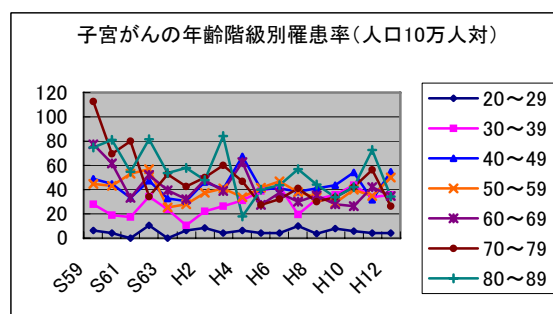
福井県における子宮がんの動向について

木下 愛^{*1} 服部 昌和^{*2} 藤田 学^{*1}

近年、がん死亡は増加傾向にあるが、子宮頸がんに関しては減少傾向である。しかし、性交年齢の低下に伴い若年者の子宮頸がんが問題となっている。子宮がん検診は昭和 57 年度より老人保健法に基づき、30 歳以上の婦人を対象に開始されているが、福井県ではそれに先駆けて昭和 47 年度より開始され、毎年約 1 万 7 千～2 万人の受診者がおり、5～7%の受診率となっている。地域がん登録、検診データを基に福井県の子宮がんの罹患率、罹患者の年齢階級別年次推移、子宮がんの来院経緯（検診群と病院群）による 5 年生存率の比較などを検討した。

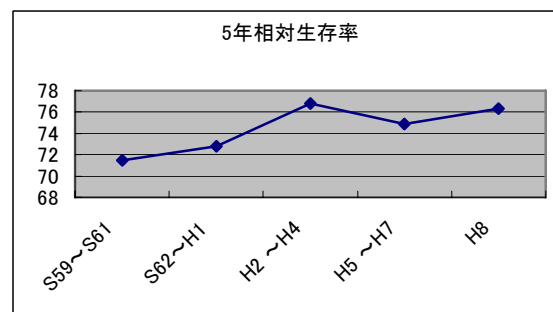


年齢調整罹患率は昭和 59 年から平成 12 年までに 0.87 倍、年齢調整死亡率は 0.69 倍と福井県でも減少していた。



昭和 59 年では第 1 位は 70 代、第 2 位は 60 代となっているが、平成 12 年では、第 1 位が 40 代、第 2 位が 50 代と若年化している。また、最近問題となっている若年者に関しては 30 代が増加傾向になっていた。

福井県での 5 年相対生存率は改善傾向で



あり、stage 別 (I、II)、年齢別において病院受診群と検診受診群で比較したところ、有意差を認め、検診の効果を示すことができた。しかし、子宮がん検診受診者は全国と比較しても減少傾向にあり、近年子宮がん罹患率が増加傾向の若年者の受診者も減少傾向となっている。そこで、子宮がん検診受診者の増加、若年者の検診受診者の増加が今後の課題である。

^{*1}福井社会保険病院 〒911-0031 福井県勝山市長山町 2-6-21

^{*2}福井県立病院 〒910-0846 福井県福井市四つ井 2-8-1